

## 高齢女性と若年女性との体幹部立体形状の比較

大妻女大家政 松山容子 ○渡邊敬子

十文字女短大 古松弥生

**目的** 高齢者の衣服が身体に不適合である様子はしばしば見られるが、そこにはサイズだけでは解決できない人体の立体形状に関わる問題が示されている。そこで、高齢者の身体の三次元的把握とそのアパレルパターンへの応用を目指し、本報では1ステップとして、体表のさまざまな起伏の情報を包含する側方からみたシルエットのカーブと立位姿勢の特徴を表現すると考えられる正中線の描くカーブを取り上げて、若年女性のものと比較し、衣服形状との関係において検討した。

**方法** 身体計測とGRASP法による三次元計測を、埼玉県在住の62歳から85歳の高齢女性29名を対象に実施した。体幹を側方からみたシルエットのカーブと頸椎点、頸窩点を通る正中矢状面の輪郭線を三次元座標値から求めた。これらを、その上に定めた基準点12点に基づいて、上背部の丸み、腰椎部の前弯・胸部の丸み・腹部の丸み等に関する角度および二つの基準点間の位置関係で表し、基本統計量を求め、主成分分析を用いて解析を行った。その結果を、44名の若年女子のデータと比較した。

**結果** 高齢者では、肩甲部や乳房部におけるシルエットと正中のカーブの形の差が若年に比べて少なく、両カーブで対応する項目の相関が高いなど、両者はより深く関連することが明らかになった。また、高齢者の立位姿勢は前傾して、背中が丸く、腰椎の前弯が弱い。さらに、シルエットでは、殿部は小さく、乳房部の突出は少なく、腹部の突出も大きいなど、若年とは著しく異なる特徴をもっているが明らかになった。これらは、アパレルパターンが若年用では高齢者体型に対応困難であることを示唆するものである。